

第10期第6回

品川区廃棄物減量等推進審議会

と き 令和3年1月26日

品川区都市環境部
品川区清掃事務所

第10期第6回品川区廃棄物減量等推進審議会（書面開催）報告書

1. 募集期間 令和3年1月26日（火）から2月10日（水）まで
2. 意見の総数 11名・22件
3. 意見概要、事務局の考え

| No. | 章 | 項目 | 意見概要 | 事務局の考え |
|-----|-----------|--------------------|---|--|
| 1 | | 答申について | 大変丁寧に解りやすい内容にまとめて頂き、感謝申し上げます。 | 答申（案）に対しご理解いただきありがとうございます。 |
| 2 | 全般に対するご意見 | 品川区廃棄物減量等推進審議会について | <p>ゴミを減らすことは、排出されたゴミの扱い方、リサイクルによる資源循環の推進強化をイメージしていたが、材料となる天然資源の温存や、一般的なリサイクルでは品質が下がるなどを踏まえた「ゴミを出さないライフスタイルへの転換」「SDGsに準拠した持続可能社会の実現」が求められていることを再認識した。またこの考え方の周知が今後の品川区の廃棄物減量にとって重要な鍵になると感じた。</p> <p>そこで、本審議会「廃棄物減量等推進審議会」の名称について少し違和感を覚えた。「等」の部分に多くの意味合いが含まれていると思うが、現名称からは「既に排出してしまった廃棄物を減らす」という印象を強く受けていたため。</p> <p>「ゴミを出さないライフスタイルへの転換」「持続可能社会の実現」を促すための新しいネーミングを検討しても良いのではないかと感じる。</p> <p>ことに今後の社会を担っていく若年世代の関心を高めることが必須と考える。</p> <p>生活にゴミはつきものだが、あまりに身近すぎるために、改めて意識したり、考えたり、会話の話題になったりする機会はさほどないからこそ、関心を持ってもらうためには今までは違った仕掛けを広範囲に作ってゆく必要性を感じた。ネーミングやデザイン、人に伝えたいようなキャッチーな情報発信など、ゴミイメージをポジティブ化する総合的な廃棄物減量推進ブランディングが実施できれば将来の品川区の「持続可能社会の実現」に繋がるのではないかと感じた。</p> | <p>品川区廃棄物減量等推進審議会へのご意見ありがとうございます。ライフスタイルの変化やSDGsに掲げられたテーマに即して事業展開を図っていくとともに、さらに区民の皆様のご理解・ご協力が得られるよう努めてまいります。</p> <p>なお廃棄物減量等推進審議会の名称は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第五条の七に基づいて定められておりますが、区民の皆様への情報提供等につきましては、より分かりやすく、親しみやすい形を目指してまいります。</p> |
| 3 | | 他政策との協働・統合について | <p>審議において品川区の都市計画とも整合性を図りながら、効果的な検討を進めるべきであるという議論があったかと思うが、廃棄物の課題解決において、意識啓発は重要である。ライフスタイルに関することだからこそ、他の政策・計画・事業と統合することで、実践的に様々な課題の解決を同時に行っていくことができると思う。SDGsのゴールの目指すところでもあると思うので、具体事例を生み出していくことが大切ではないか。今回は具体的な内容まで触れられなかったのが心残りだが、他政策との統合については、可能であれば触れていただきたい。</p> | <p>答申（案）に対しご理解いただきありがとうございます。</p> <p>ご指摘のとおり、ライフスタイルという大きなテーマの一つとして廃棄物の問題を考えることで、さらに多方面から課題解決へ向けた検討ができるものと考えております。</p> <p>他の政策等との協働・統合につきましては、具体的な取り組みにつなげられるよう、今後そのあり方を検討してまいります。</p> |

第10期第6回品川区廃棄物減量等推進審議会（書面開催）報告書

| | | | | |
|----|-------------------------------|--------------------------------|--|---|
| 4 | 全般に対するご意見 | 食品ロスについて | 子供食堂やフードバンク等で、再利用できた食品のデータはあるか。 | 環境課では、エコフェスティバルや環境講演会の際にフードドライブを実施し、お米や乾麺、調味料等を集めております。 令和元年度では、総計206件、61.8kgの食品が集まりました。 |
| 5 | 第1章 ごみ・資源回収を取り巻く現状 | 4 ごみの減量化と資源化施策と現状 | 項目名について、「ごみの減量化と資源化施策と現状」より「ごみの減量化と資源化施策の現状」の方がよいと思う。 | ご意見を踏まえ答申（案）を修正しました。 |
| 6 | | | 「普及啓発活動」の項目に、「ホームページによる啓発」などを追加してもよいと思う。 また、終了した事業について「〇月中止」ではなく「〇月まで」の方がよいと思う。 | ご意見を踏まえ答申（案）を修正しました。 |
| 7 | | 5 諮問に対する検討の論点 | 本文からは資源・ごみの排出量の増大がコロナ禍における主たる問題のように受け取れるが、第4章では排出量だけではなく安全面への配慮も大きな問題として取り上げられている。言葉を足した方が整合性がとれると思われる。 | ご意見を踏まえ、答申（案）を修正しました。 |
| 8 | 第2章 プラスチックごみについて | 2 品川区におけるプラスチックリサイクル | 燃やすごみにリサイクルできるものが約13%混入していることについて、今後1桁台になることを目標とし、工夫して情報を共有していくことを望む。 | 清掃事務所では燃やすごみの中の資源量を減らすことは喫緊の課題であると認識しております。引き続き適切な分別等の周知徹底に取り組んでまいります。 |
| 9 | | 3 プラスチックごみ減量へ向けた具体的取り組み | 汚れを落として無理にリサイクルすることは、温室効果ガスの増加につながりかねない。 汚れを落とした水は浄化処理が、油を拭った布の洗濯する際にも洗剤使用や洗濯機のエネルギー、汚水処理などが必要となる。（繰り返し使用する布おむつより使い捨ての紙おむつの方が温室効果ガスが少ないという分析結果がある） 一方、廃プラの焼却では熱回収による発電ができるので、温室効果ガスの削減につながることもある。 リサイクルは環境負荷を下げるための手段であり、リサイクルを目的にはいけない。汚れを落としてリサイクルに回すべきか、そのまま焼却処理して熱回収すべきかを十分検討したうえで、汚れに関する情報提供が必要と考える。 | ご指摘のとおり、リサイクルそのものが目的化しないよう、正しく情報を伝えていくことが重要であると認識しております。ご意見を踏まえ、答申（案）を修正しました。 リサイクルの目的・意義を明確にした上で、燃やすごみに含まれる資源などの適切な回収等に向けて啓発、情報提供を行ってまいります。 |
| 10 | | | 「区では～リサイクルについては積極的に取り組んでいるが～」とあるが、「リサイクルについても積極的に」の方がよい。 | ご意見を踏まえ、答申（案）を修正しました。 |

第10期第6回品川区廃棄物減量等推進審議会（書面開催）報告書

| | | | | |
|----|-----------------------------|-------------------------------------|--|--|
| 11 | 第2章 プラスチックごみについて | 3 プラスチックごみ減量へ 向けた具体的取り組み | <p>資源回収量のうち、例えばペットボトルに関しては、当然、事業者や家庭が購入しているペットボトルの量を超えることはない。試算でも、その最大量を示すことができればと思う。品川区でのペットボトルの年間消費量と、そのうち区で回収されている本数などを示せば、回収されていないものが、燃やされているのか、他の回収業者が回収しているのか、など、小学生などへの啓発に利用できると思われる。</p> | <p>清掃事務所としましても啓発等を行っていく上で数値や実績を示すことは重要であると認識しております。ご意見を踏まえ、答申（案）を修正しました。具体的な取り組みにつきましては、今後の課題といたします。</p> |
| 12 | | | <p>プラスチックごみの問題は、環境問題と結びつくものと思うので、区が新設する「環境学習施設」においても、小中学生に資源回収の意識を高める教育を行うことを希望する。</p> | <p>小中学生など、子ども世代への啓発は重要であると認識しております。ご意見を踏まえ、答申（案）を修正しました。様々なツール等を活用し、さらなる啓発に努めてまいります。</p> |
| 13 | | | <p>答申（案）にSDGsの目標の1つが記述されたことはとても良かったと思う。 プラスチック容器包装の汚れの落とし方や、ブラマークが無く分別に悩むものに関する案内は積極的に おこなってほしい。</p> | <p>答申（案）に対しご理解いただきありがとうございます。 ご指摘の箇所は、修正いたしました。</p> |
| 14 | 第2章 プラスチックごみについて | 3 プラスチックごみ減量へ 向けた具体的取り組み | <p>資源回収量の約20%が基準適合していないことについて、早めに改善策を考える必要があると思う。</p> | <p>資源になるもの、そうでないものが分かりやすく伝えられるよう、委員のご指摘のとおり事例等をあげながら、引き続き適切な分別等に向けて取り組んでまいります。</p> |
| 15 | | | <p>事業系廃棄物の3R促進について、具体的な取り組みや、見込まれる発生抑制率は、どの程度と考えているのか。</p> | <p>具体的な取り組みを示すため、答申（案）を修正しました。発生抑制率の見込みにつきましては、適切に事業を進めていく上で、情報を精査してまいります。</p> |
| 16 | | | <p>イベントだけでなくSNSを用いた日常的な啓蒙活動も実施検討してほしい。 汚れの落とし方について納豆や食品トレイの具体例が挙げられているが、問い合わせを躊躇うほど些細な日々の疑問や、非科学的な理由で資源回収できないプラスチック製容器包装（例えばクリーニングのハンガーや包装ビニールなど）の具体例とその理由などを日常的に発信する事で、分別に迷う煩わしさを軽減し分別回収率や適性回収率の向上が期待できると思われる。 同時に雑学的観点で楽しみながら閲覧できる記事となるよう工夫することで、多くの区民の閲覧を促し関心を寄せてもらう事ができると思われる。</p> | <p>清掃事務所としましても、SNSなどICTを活用した周知方法については検討課題として認識しております。ご意見を踏まえ、答申（案）を修正しました。</p> |

第10期第6回品川区廃棄物減量等推進審議会（書面開催）報告書

| | | | | |
|----|---|--|--|--|
| 17 | 第2章 プラスチックごみについて | 3 プラスチックごみ減量へ 向けた具体的取り組み | ペットボトルは買取にあたり、逆に費用が発生していることなどの現状はまだあまり知られていないと感じた。排出量や使用状況とともに具体的な買取費用などの推移を併せて広報することで検討してはどうか。区民の税金から費用捻出している事実を知ってもらうことで、発生の抑制の一助になると思われる。 | 具体的な事例をあげて広報することは、効果的な取り組みであると考えます。費用等を一つの指標とすることについて、答申（案）を修正しました。プラスチック資源に特化したQ&A等を作成していく中で、検討してまいります。 |
| 18 | | | 区民全体の発生抑制活動（プラスチックごみに限らず）の期間目標を設定し、その達成度によりインセンティブが得られる制度を検討してはどうか。大きな関心とモチベーションになると思われる。 | 区民の参加意識、モチベーションを高める取り組みは重要であると認識しております。インセンティブはその一つのテーマとして検討してまいります。 |
| 19 | 第3章 集団回収事業について | 4 集団回収事業の 維持、発展に向けて | 集団回収を行っている集合住宅では、住民全員にわかるよう告知していく必要があると思う。 | 引き続き区民全体への周知啓発を行ってまいります。 |
| 20 | | | ゴミを減らすには、生活者の意識改革が必要と考える。日頃から、ゴミを分別する習慣を植え付ける事、例えば資源ゴミを分類することを月間又は年間のテーマにして、区民に訴えるべきである。その為には、資源ゴミに成るものの種類を細かく提示し、区民一人ひとりに行き渡る様に、学校関係・各団体・商店街・地域等に保存出来る物を渡す。集団回収も、知らない人が殆どのため、650ヶ所も有るのなら近所の人達に周知するべきである。これら周知方法も多くの人意見聞き、徹底的に行う。一つのテーマを徹底的に実行して行く事が重要。人間は一つの事を意識すると、次から次へと考えが広がる。これが意識改革である。周知の方法も意識改革すべきである。 例えば、資源ゴミの知らせ方、お店等に「これは資源ゴミでだして下さい。」のハンドビラをレジ袋に入れてもらう。街頭放送、すて看板、宣伝カー、まだまだアイデアが有ると思う。一年かけて資源ゴミを追及してはどうか。 | ご指摘のとおり、ごみの分別を習慣化させることは重要かつ喫緊の課題と言えます。清掃事務所では、廃棄物減量等推進員の皆様や、小学4年生向けのごみ・リサイクル啓発冊子の配布などで地域との連携、協働を図っているところです。 今後とも、周知方法等についてさらに研究を重ね、細部まで情報が行き渡るよう努めてまいります。 |
| 21 | 第4章 新型コロナウイルス感染症の 影響下における清掃事業について | 3 ウィズコロナにおける 清掃事業 | しっかり読ませて頂き、答申（案）については具体的提言で大変わかりやすく、読みやすくまとめて頂き感謝する。 清掃事業が「日常生活を守るために必要不可欠な職」である事が多くの人達に認識されたことは良かったことだと思う。 また「クラスターを発生させず安定的な清掃作業を実現」したことは品川区民の一人として誇らしく思う。 「600件以上の激励や御礼の手紙」というのも感激した。このようなことはもっと広報紙や小中学生向けパンフレット等で何度も掲載した方がよいと思った。 | 答申（案）に対しご理解いただきありがとうございます。安定した清掃事業が実現できたことは、区民の皆様のご協力あつてのことと考えております。清掃事業がエッセンシャルワークとして再認識されたことを機運に、さらなる意識啓発に向けて取り組んでまいります。 |

第10期第6回品川区廃棄物減量等推進審議会（書面開催）報告書

| | | | | |
|----|---|--|--|---|
| 22 | <p>第4章 新型コロナウイルス感染症の 影響下における清掃事業について</p> | <p>4 アフターコロナにおける 清掃事業のあり方</p> | <p>感染症対策としてマスク、手袋、ティッシュ、梱包用プラスチックなど様々なディスプレイ用品が急増している。業務用・医療用に限らず、テイクアウトでの弁当容器・紙カップの急増など、これまでリユースが推奨されてきた物品が使い捨てになっている。</p> <p>この現状はやむないことだが、これまで積み上げてきた「使い捨てはやめましょう」「モノを大切にしましょう」という社会の価値観が急激に置き換わってしまったことに小さな戸惑いを感じることもある。</p> <p>このコロナ禍で幼少期を過ごす子供たちにとっては、今現在の感覚が当たり前のこととして定着する事が懸念される。使い捨てにする事が最善と考える社会にならないようにするためには、コロナ禍前後でのごみ項目別排出量の比較と合わせて、使い捨てるの必要、不要を適切に理解できるような情報も合わせて共有できれば良いと感じる。</p> <p>さらには、現在出回っている膨大な量の遮蔽フィルム、遮蔽板、アルコール噴霧機、マスクなどは、感染症収束後に大量廃棄され社会問題になる事が予想される。これらのリユースアイデアや適切な処分方法・不法投棄対策を検討しておく必要があるかもしれない。</p> | <p>ご指摘のとおり、アフターコロナの取り組みとして、これまでの分別の取り組みを継続することは重要です。ご意見を踏まえ、答申（案）を修正しました。</p> |
|----|---|--|--|---|